

岐阜縣文語シンポジウムの報告

一〇〇

岐阜縣文語シンポジウムの報告

令和改元記念事業岐阜県文語シンポジウムは、「文語の魅力 講演と朗讀」をテーマとして令和元年九月二十九日(日)午後一時半より三時半まで岐阜縣圖書館にて開催せられたる處、約百名の参加者を得て成功裡に之を了せり。副題は「令和時代に傳へたき美しき日本語の響き」なり。その概要下記の通り。

先づ文語の苑理事長土屋より「文語のすすめ」と題し、美しく格調高き文語を後の世代に繼承して行くべき必要性につき述べ。次いで多治見出身の加藤淳平元ベルギー大使(文語の苑副理事長)より「岐阜縣と私と文語」と題し、當地出身の江戸時代の儒者、漢詩人(佐藤一齋、江馬細香、梁川星巖、張紅蘭)の遺したる漢詩の魅力等について詳細なる講話あり。次いで朗讀家熊澤南水先生(文語の苑社友)より當地出身の

坪内逍遙(小説神髓)及び島崎藤村(初戀、吾胸の底のここには、椰子の實)の朗讀あり。齒切れよき文語の魅力に廳衆一同魅了せらる。最後に岐阜大學副學長の林正子先生より森鷗外獨逸三部作(舞姫、うたかたの記、文づかひ)の雅文體につき懇切丁寧なる講話あり。

開催に當りお世話になりたる岐阜縣廳の矢本哲也縣民文化局長及び擔當の文化傳承課主査加藤和英様にはこの場を借り感謝を申上ぐる次第。また、古田肇岐阜縣知事よりは、「今回のシンポジウムを通じて多くの皆様に日本古來の美しい言語文化である文語に觸れていただきその魅力が傳はることを期待してゐる」旨のメッセージを頂けり。更に岐阜圖書館の司書の方方は、今回シンポジウムの内容に係る推奨書籍の一覽表を作成すると共に特別展示及び貸出も實施

して頂き、感激に堪へず。

なほ、二〇二一年文語シンポジウム開催豫定地の三重縣より、お忙しき中、辻上浩司文化傳承課長のご視察もあり、今後に繋がるものと期待す。

(土屋博記)

(令和元年十月十八日受附)